

## 地区懇話会の状況報告

### 1 調査の目的・概要

地区懇話会は、各地域の現状や課題、地域福祉に関する意見をうかがい、計画策定に反映することを目的としています。

地区懇話会は、7つの圏域において、それぞれの地域の市民活動センター等で開催しました。開催にあたっては、アンケート調査の結果や計画策定の趣旨などを説明し、意見をいただきました。

### 2 懇話会の概要

#### (1) 実施概要

実施期間	令和6(2024)年7月2日(火)～
実施対象	東松山市の7圏域(地区)の市民
主な懇談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民アンケートの地区別結果概要について</li> <li>・各地区における地域課題の特徴などについて</li> <li>・今後の活動について</li> </ul>

#### (2) 対象地区及び懇話会実施日

	地区名	開催場所	実施日
1	野本地区	野本市民活動センター	令和6年7月2日(火)
2	平野地区	平野市民活動センター	令和6年7月9日(火)
3	大岡地区	大岡市民活動センター	令和6年7月16日(火)
4	高坂地区	高坂市民活動センター	令和6年7月17日(水)
5	高坂丘陵地区	高坂丘陵市民活動センター	令和6年7月18日(木)
6	松山地区	市民福祉センター	令和6年7月22日(月)
7	唐子地区	唐子市民活動センター	令和6年8月19日(月)

※懇話会の実施順に掲載しています。

#### (3) 懇話会の結果概要(主な意見・要望のまとめ)

##### ① 野本地区

- ・地域福祉に関する認知度が低いので、市民に周知させるようなプランを作ってほしい。
- ・日ごろの不安については、健康に関することが多いので、市民の健康不安を解消する事業を実施・継続してほしい。
- ・当地区は、地域に「とても愛着がある」が全地区中1位であることを強調すべき。
- ・地区の自治会数や自治会加入世帯数についても、「各地区の現状」に記載したらどうか。
- ・市と社会福祉協議会との役割分担や事業内容の違いが分かりにくい。分かりやすい情報提供が必要。文面での配布だけでなく、高齢者が集まる集会などの場で直接説明すべき。
- ・自治会に加入していない人に、福祉についての情報が行き届いていないのは、不平等ではないか。

## ② 平野地区

- ・隣近所との付き合いが少ないことが地域の課題。特に、一人暮らしの高齢者について、隣近所として注意深く見守らなければならないが、なかなか声をかけることが難しい。地域福祉という観点から、一人暮らし高齢者に対する隣近所での見守りが重要である。
- ・アンケート結果では、地域における活動に参加したことがある人の割合が7地区の中で最低であり、また地域に愛着がある人の割合が全体平均を下回っていて、違和感を覚えた。行事を行えば、コロナ禍前と同等の人数を集めることができる。
- ・地域の高齢化が進み、自動車免許を返納する人が多くなるため、コミュニティバスの運行を充実させてほしい。デマンドタクシーについても、利用料金の値上がりで利用が困難な人が増えているので、市内循環バスの路線拡充を考えて欲しい。デマンドタクシーの利用を高齢者・障害者・子育て中の人に限定して料金を下げるのも一案ではないか。
- ・当地区では、夫婦のみ世帯が多く、子どもが都内や他県に住んでいるケースが多い。身寄りのない方や、一人暮らしの方、夫婦のみ世帯への支援など、法律上の壁があって地域包括支援センターだけでは対応できなことを強化してほしい。
- ・IT化に取り残された高齢者が多い。そこで、地区内にITに関する相談ができる場所を設置してほしい。また、市民活動センターのWi-Fi環境を整備していただきたい。
- ・当区だけではなく、東松山市全体で小中学生の居場所、気軽に親が相談できる場所をつくって欲しい。例えば、公民館で夏休みのイベントを行うなど。また、公共体育館の利用ルールを柔軟にし、子どもが楽しんで使える環境を整えて欲しい。
- ・自治会加入率の減少が課題。役員や会長のなり手が少ない。最近では、「自治会に入ることの具体的なメリット・デメリット」についての説明を求められるようになった。若年層の未加入だけではなく、一人住まいの高齢者の退会が増えていることが問題ではないか。
- ・市の広報誌で、自治会に加入するメリット・デメリットの特集を行うことはどうか。口頭で直接メリットを伝えることは難しい。

## ③ 大岡地区

- ・アンケート結果では、社会福祉協議会の支部が会費等で運営されていることについて、73%以上の人知らないと答えている。回覧板で市民に社協の情報が伝えられているが、多くの人は見ない。他の方法を検討すべき。
- ・当地区は、(市街化調整区域であるため)新しい家が建てられないので、全体的な戸数が少なく、人口流入も見込めない地域である。そのため、社会福祉協議会支部に充てる予算は少なく、骨身を削って支部を運営している状況。コロナ禍の影響もあり、予算が減少し、活動や事業実施の継続が難しい。
- ・アンケート結果によると、福祉に対する関心の高さが7地区で最も高い。高齢者が多いからか、困っている市民が多いからなのか。
- ・当地区は高齢者が多く、今後は自動車免許を返納する人が多くなるため、移動交通の問題がある。本地区は、(生活利便施設までの距離が遠いため)デマンドタクシーの料金が高く、利用できないという声がある。滑川町には無料の交通サービスがある。車がないと生活に困るため、デマンドタクシーの利用条件を免許返納した人にする、500円均一にするなど、特に注力して資金を注入してほしい。
- ・今後は、高齢者だけではなく、3世代で交流できる場を増やしていきたい。
- ・支え合い事業として「安心見守りネットワーク」事業を実施しているが、ほとんど稼働していないため、一人暮らし高齢者の増加に備えて、改めて稼働できるようにしていきたい。
- ・当地区には体育館や入浴施設がない。子どもや高齢者にとって、荒天時の遊び場や居場所、健康維持のための運動の場の整備が必要。

#### ④ 高坂地区

- ・アンケート結果で、社会福祉協議会がどのような活動をしているのか知っている市民が少ないのは問題である。社協の活動・目的・重要性を分かりやすく市民に周知すべき。例えば、実は社協が体育祭・レクリエーション活動を主催していることなど。
- ・当地区は、新しく加入した世帯が多く、自治会に加入せずにアパートに住む住民が多い。ただ、社協支部は、自治会費で運営されている。社協支部を、自治会に加入している50%の住民が全体の住民のために支えていることになり、問題である。
- ・アンケートの近所づきあいに関する設問で、近所づきあいが大切だと思うと考える市民の割合が7割程度いるにも関わらず、実際の近所づきあいは「顔をあわせれば挨拶する程度」、「たまに立ち話をする程度」が多い。このギャップは何が原因なのだろうか。高坂地区は学生が多く4年で地区を離れるため、自治会には加入しない。それで自治体加入率が低くなっているのではないか。また、高坂地区に新しく転入した世帯も自治会に入らない他、役員ができないため自治会を離れる高齢世帯もいる。自治会に入らない住民が増え、地区の情報を入手できない住民が増える。このような状況で、地域福祉の成立は難しいのではないか。市の策定委員会で原因を分析し、対処法を福祉計画に盛り込んでほしい。

#### ⑤ 高坂丘陵地区

- ・当地区は、人口の世代比率に大きな偏りがある。戸建て住宅地が開発された約35年前に入居した70~74歳の住民が特に多く、その子ども世代の流出が顕著であり、人口ピラミッドが傘の形をしている。
- ・民生委員が社会福祉協議会の活動会員を兼務しているが、本来は分けた方が良い。活動者本人も、事業への参加者も、自治会活動と社協活動の区別がついていない。
- ・福祉サポートのボランティア登録者数が少ないことも課題。
- ・市の福祉に関する各部署が連携を行うべきである。実際に活動するのは社会福祉協議会の支部であるが、現在は連絡・連携がうまくできていないと感じる。
- ・市と社協それぞれの役割の違いについて認識できていない住民がいるので、市がアドバイスできる体制を整えて欲しい。また、各地区によって活動状況が違うので、他の支部の情報を高坂丘陵地区に発信して欲しい。社会福祉課がまとめ役になって実践してもらいたい。
- ・市が作成する地域福祉計画と社会福祉協議会が作成する地域福祉活動計画を市民全員に配布し、読めるようにすべきである。また、地域福祉（活動）計画について説明会を開催して欲しい。
- ・あと5年で多くの世帯が80代になる。買い物や病院までの移動手段の確保は喫緊の課題。また、80代になると老々介護も困難なので、地域に仮設の介護施設を整備してほしい。
- ・当地区では空き家が増えている。若い世代の入居を促進するなど、空き家対策を強化してほしい。本地区は緑や公園が多く整備されておりウォーキングコースが素晴らしい。標高が高く地震に強いなど、高齢者でも安心・安全に暮らせるまちであることをアピールすべき。
- ・シニアクラブやハッピー体操の担い手(サポーター)は80代が中心となっている。健康維持や介護予防に役立っているが、活動の維持が難しくなる。介護の担い手も含めて、有償ボランティアの募集など、地域の福祉活動を継続できる仕組みを検討していただきたい。
- ・市内循環バスの利用率が低いので、路線の再検討が必要。また、デマンドタクシーは6社が参入していたが、現在は3社のみである。これは、デマンドタクシーが不便で利用率が低いからだと考える。週末は使用できず、17時以降は使えない。有効な活用方法を考えて欲しい。
- ・今後は、買い物などの移動交通手段の確保の他、スーパーマーケットの出張販売や移動販売車の誘致などが特に必要。

## ⑥ 松山地区

- ・アンケートは気付きになる。社協の話が何回も出ていたが、ボランティアをしている中で、社協がこういうところだと、そもそも理解できていなかった。市の職員の人だと思っていたし、一般の人はそう感じているだろう。しかし、役割分担が異なる組織だと気が付いた。シニアクラブの中で社協が何をやっているかを理解することができた。社協の活動をみんなにわかってもらえる努力が必要だと思う。
- ・「共助」の中で自治会活動やシニアクラブ、ボランティア、民生委員などが活躍しており、社会福祉協議会の活動が行われている。ただ、活動するには資金が必要だと思う。住民同士の助け合いだけでは解決しない面がある。
- ・民生委員は「奉仕の精神」で行っている。時代が変わる中で時代に即した形が必要だが、気持ちが大切だと考えている。
- ・東松山市と社会福祉協議会の役割分担、主にどういうところを重点に役割を分担して進めているのかが分かりにくいので、明確にしてほしい。
- ・地区社協へは町会費から支払いをしている。ただし、社会福祉協議会の事業は町会・自治会に入っている・いないではなく、市民全体を対象とした事業がほとんどである。市民全体が恩恵を被ることがほとんどなので、社協の会費に加えて半額くらいは市の公費から社協へ助成するなど、対象が市民全員なので、発想を変えてもらいたい。
- ・地域福祉計画には、防災や災害について書かれてない気がする。災害に関心のない自治会もある。高齢化が進むと、災害に対応できなくなる。何か起きた時の対応を考えなければならない。

## ⑦ 唐子地区

- ・全国的に少子高齢化が進んでおり、唐子地区も同様に支える側が少なくなり、支えられる側が多くなってきている。そのような状況の中で、地域全体での見守り、人と人との交流・関係づくり、社協を中心とする地域の諸団体の活動が重要になる。
- ・当地区は、住みやすい場所と不便な場所が混在した地区といえる。地区内の隅々まで便利さが行き届くように、地域の諸団体が広く見守っていき、不便だという声が聞かれない地区にしたい。そのためには、やはり市からの援助も必要になる。
- ・車での移動が必須である地区にありながら、唐子地区においても高齢化が進み、運転免許証を返納する人が増えている。今後、移動手段が少ないことが問題になってくることが予想されるため、デマンドタクシーやライドシェアの導入、大学や研究機関等との連携による実証実験を進めることが必要だと思う。
- ・地域の活動、サロンやシニアクラブが盛んになり、様々な人と交流できる場ができれば、一人暮らしの高齢者への見守り対策等については、あまり騒がなくてよくなる。高齢者になっても元気でいられる施策も必要だと思う。
- ・当地区の特徴として、サロン会員の大半が女性であり、男性が非常に少ないことがある。サロン活動の内容によるところもあるが、男性が活躍する場があれば変わってくるかもしれない。
- ・同一敷地内に新たに家を建て、二世帯・三世帯で住んでいる状況が多く見られる。自治会会員が減少し続ける中で、その存続のためにも世帯ごとの自治会加入の促進や積極的に子ども世代が自治会・交流会に参加するように促すなどの対応が必要だと思う。